

市民フォーラム 定禅寺通を「ひと中心の空間」にアップグレードしよう！

クロストーク ～UPGRADE JOZENJI～

登壇者

- ・定禅寺通街づくり協議会 会長 佐藤晶洋
- ・(一社)定禅寺通エリアマネジメント 代表理事 氏家正裕
- ・埼玉大学大学院工学研究科 教授 久保田尚
- ・(株)オンデザインパートナーズ 代表 西田司
- ・仙台市まちづくり政策局定禅寺通活性化室 室長 高橋勝美

進行役

- ・NPO法人都市デザインワークス 代表理事 榎原進



榎原 定禅寺通活性化検討会で策定した基本構想の概要と、定禅寺通再整備方針中間案の双方によく出てきたのが官民連携という言葉です。官民連携をキーワードとして、定禅寺通のまちづくりをどう進めていくかクロストークしていきたいと思っています。まず最初に、簡単な自己紹介と中間案の感想をお願いします。

定禅寺通再整備方針中間案の感想

氏家 おばんでございます。氏家と申します。本業は不動産賃貸業でして、(一社)定禅寺通エリアマネジメント(以下「JSAM」)では代表理事をさせていただいています。よろしく申し上げます。中間案には、地域の方々が長年まちづくりにかけてきた想いが反映されていると思います。2030年、次の20xx年に向け、より理念に沿った形を作るスタートとして、よくまとまっていると思います。

佐藤 定禅寺通街づくり協議会(以下「協議会」)会長を仰せつかっています。国分町三丁目友和会会長も務めておりまして、私はこの定禅寺通が地元ということになります。

基本構想の実現には、民間と行政の協力が絶対に必要です。官民一体となって、市長・県知事・市内外みなさんに協力いただきながら、やっていかなければいけないと思っています。

中間案では、私たちが基本構想で提案した以上に、給水設備やベンチなど細かい検討を市でいただいた。定禅寺通活性化の担当部署ができて、だいぶ前に進んだと思います。この中間案はあくまでもスタートのスタートで、皆さんのお知恵を拝借してもっといいものにしてもらいたいと思っています。よろしく申し上げます。

榎原 久保田先生は交通計画の専門家で、定禅寺通活性化検討会の時代から地元の皆さんの議論に参加いただいています。

久保田 埼玉大学の久保田と申します。よろしくお願いたします。道路交通を中心に勉強しまして、歩行者空間拡大等の取り組みをしてきました。過去に皆さんと議論させていただいて、その質・姿勢が大変素晴らしく、感服いたしました。また、先ほど佐藤会長の、2030年とその後の未来を見据え今はまだスタート地点なんだというお話にさらに感嘆したところです。

中間案については、様々な点を科学的に分析し、市民の方と共有して、ここまでならできる・難しいというのをひとつずつ確認しながら、うまくまとめられたというのが感想です。

榎原 西田先生には、定禅寺通活性化検討会で空間活用のレクチャーを、中間案では空間のデザインという視点でアドバイスをいただきました。

西田 横浜の(株)オンデザインパートナーズという、設計とまちづくりの事務所から来ました西田です。東京理科大学でも建築と都市の研究室を置かせていただいています。

定禅寺通の取り組みは、民間が作ったまちづくりビジョン(基本構想)を受けて行政側が再整備方針を作る、民から出た物に対して官がキャッチボールをするというやりとりが非常に健全で、全国的にも注目されています。

久保田先生同様、僕も皆さんの議論には驚かされました。公共空間の利活用では、民間側からエリアをマネジメントしていく意識が大事なんですが、専門家がコメントするまでもなく既にその視点を持って議論されているのが印象的でした。

中間案では、ツリーサークルや緑道に滞在できる場所、まちを眺める場所が出来ます。そこに自分たちが座ることで、まちの風景に参加し、その風景自体が絵になる。整備方針にはデザインの観点が抜け落ちることが多いですが、中間案ではデザインの視点を活かして、市民の方が日常的に滞在し使っていく場所にするということを綿密に検討

市民フォーラム 定禅寺通を「ひと中心の空間」にアップグレードしよう！ クロストーク ～UPGRADE JOZENJI～

していると思います。

榊原 室長、中間案についてお褒めの言葉が多かったようです。コメントをお願いします。

高橋 定禅寺通活性化室の高橋と申します。よろしくをお願いします。お褒めではなくて、もっとがんばれという激励かと思いながら聞いておりました。職員一同、一生懸命皆様の声・議論を踏まえて考えてまいりました。地元の皆さんの議論から多くのヒントをいただき、伝わってくる皆さんの想いを、専門家の先生方にご意見をいただきながらとりまとめました。仙台市ががんばって作ったというよりは、地域の皆さんと一緒に作り上げた中間案だと思います。まだ中間案ですので、皆さんからまたたくさん意見をいただければと思います。よろしくをお願いします。

再整備後の展望



榊原 ここからは、道路空間が再整備された後に、ひと中心の空間に向けてどういう展望があるか、民間でどういうことをやっていきたいのか等を中心に伺いたいです。

氏家 道路空間をどう使うのがいいのか、どうしたらにぎわいを作れるのか、そもそも歩道を広げる必要性があるのかということも含めて、社会実験をしてきました。2030年までに実現したい姿を描いて、その姿を実現できるよう、定禅寺通は東西長いので東西で分かれて、ストリートアライアンスやリビングストリートというプロジェクトや、中央緑道にお店を置いてみたり、いろんな取り組みをやってきました。

今後は、賑わいが出来ていくにつれ、定禅寺通のこの風景・この場所があるからここに住む、来街者から地元民になりたいと思う方が増え、さらに賑わいが大きくなる。そんな素敵な場所、雰囲気のあるまちを作っていきたいです。

西田 参考事例として、パリのシャンゼリゼ通りの一大改革があります。観光客のための場所から市民のための場所が変わろうと、定禅寺通と同じで、並木道の下にひと中心の場所を作り、市民の庭園のような場所にしようとしています。

定禅寺通に期待するのは、日常的にケヤキの下に居場所を作って、その魅力を実感できる場所を作ることです。今あるベンチはあまり使われていませんが、今後歩道を拡幅して、ほこみち(歩行者

利便増進道路)制度を活用し、カフェのテラス席ですとか日常的に利用できる空間が整備され、定禅寺通がアップデートされていくのが楽しみです。

榊原 ほこみち制度について、簡単に解説いただけますか。

高橋 現在、道路空間の利活用によるまちの活性化や、滞在空間の創出等の新しいニーズが世界中で高まっています。日本でも令和2年度に道路法が改正され、歩行者利便増進道路(通称ほこみち)という制度が出来ました。

ほこみちに指定されますと、道路を使って何かをする際に必要な道路占用許可が柔軟に認められ、民間の創意工夫による道路空間づくりが可能になります。また、清掃や除草などを行うことにより本来かかる道路占用料が9割減免になり、より使いやすくなります。仙台市ではすでに定禅寺通(立町エリア)と国分町2号線(稲荷小路)がほこみちに指定されています。

久保田 先ほど協議会から再整備後の道路空間利活用の説明として、道路上にテーブルやイスを置いて飲食している様子が紹介されました。これまで、道路は通行するもので滞在するところではないとされてきましたが、まちの活性化のためには道路の活用が必要だと分かってきて、ひと中心の空間にするという大転換が起こり、そのような使い方が可能になりました。

佐藤 私は欲張りなので、なんでもやってみれば良いと思っています。我々は民間だけれども、ソフト面だけじゃなくハード面の課題もなんとかしたい。いろんな方にJSAMに参加してもらって、自分たちでやりたいことや課題について地元の人たち皆で意見を出し合う。無理かもしれない、でもやってみないと分からない。専門家や仙台市にも参加してもらって、相談しながらやっていけたらいいというのが、私の理想です。

自転車をめぐる問題



佐藤 自転車の問題も、時間をかけてルール啓蒙をしていかないといけないと思っています。

久保田 自転車は車両であるというのが国の基本的な考え方で、歩道でなく車道を走りやすくなるよう取り組んでいます。

高橋 地元の方からはいろいろなご意見をいただきました。自転車通行帯を作るのだから歩道は通

市民フォーラム 定禅寺通を「ひと中心の空間」にアップグレードしよう！ クロストーク ～UPGRADE JOZENJI～

行不可にというご意見や、市内の多くの歩道で自転車通行可なのに定禅寺通だけ不可にするのはおかしい、というご意見もありました。

当面は車道側に自転車通行帯を作りながら歩道も通行できることとしますが、歩行者の歩道通行量が増える中で、自然と自転車は通行帯に移っていきたくて期待しています。今後、自転車の通行ルールの啓蒙が必要ですので、官民連携で、県警とも協力してやっていかなければと考えています。

久保田 歩道に自転車歩道通行可という標識がある場合に限り自転車は徐行しながら通行できる。歩行者を妨げる場合には自転車は停車する。自転車の通行ルールはこうです。

いろいろな調査をしてきましたが、歩道通行可というルールを残した場合でも、車道に自転車通行帯を作ると、自転車は歩行者がたくさんいて走りにくいので、歩道を避けて自然に車道に降りていきます。また、自転車で車道を走るの怖いと思われるかもしれませんが、車の運転手からは歩道から交差点に降りてくる自転車の姿がよく見えないため、事故がよく起こります。最初から車道にいて認知し合ったほうが安全で、統計上も明らかに車道の方が安全という結果が出ています。

ゴミ問題の解決をデザインする



佐藤 それから、ゴミの問題ですね。町内会や協議会だけでも、官だけでもできないので、官民一緒にやらないといけない。時間がかかってもなんとか解決したい。

氏家 ケヤキの下がゴミの収集場所になっていて、ゴミが置いてあるんです。ゴミは全国的な課題だと思うんですが、解決してきた地域やデザインの事例はありますか。

西田 定禅寺通では事業者が個別にゴミ収集の契約をしていますが、例えば札幌大通まちづくり株式会社では、まちづくりの観点から住民や事業者のゴミの収集方法を一度統合させるということをやっています。

デザインに関しては、今まではマイナスな存在だったゴミについて、捨て方、ゴミ箱のデザイン、リサイクルの方法等を考えていく「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」が世界的なトレンドになっています。定禅寺通だけでなく、仙台市全体でゴミというものをもっとしっかりデザインして

いく、もしくはリサイクル・循環の一端として扱っていくといいですね。

多様な主体と多様な行為がまちを豊かに



西田 私からは、社会実験をやってきた実感とか、今後やりたいことについて、多様性の視点からお聞きしたいです。プレイスメイキングに、Power of 10+という多様な行為が出来る場所を評価する考え方があります。子どもが遊び、大人は仕事をしたり本を読んだり、その場所がいろんなふるまいを許容し、共存していることが豊かだという考え方です。

氏家 歩道に滞在するためのイスやストリートファニチャーを設置した当初、ただの休憩か、買った弁当やコーヒーを飲食するかの使われ方しか見られず、多様性や深みのない場所になってしまいました。

歩道拡幅に伴って、ビルの建替等が進んで、歩道空間の多様な利用につながっていく。このようにまち自体も変わっていかねばならない。これは民間の受け持ちになると思うんですが、滞在場所がただの休憩場所でなく、なにかを楽しむ・する場所になるように環境を整えていかなければならないというのが、これまでの社会実験で感じたところです。

今、別の取り組みとして多くの企業を定禅寺通に呼び込む「定禅寺通シリコンバレー計画」をやっている、企業が増え人が増え、皆でわいわいやっていくことで、Power of 10+が進むのはとてもいいことだと思います。

久保田 使われ方だけでなく、障害のある方、高齢の方、子連れの方等、多様な主体が楽しめるようご配慮いただきたい。

榊原 今のお話を聞いて佐藤会長いかがですか。

佐藤 とにかくなんでもやりましょう(一同笑)。最初からダメだと言わないで、専門家のお話を参考にしながら、なんでもやってみる。やってみてやはり無理なことが出てきたら、その決断は協議会ですとして、とにかくなんでもやっていきたいと思っています。

(令和4年12月21日開催)

